

平成31年度 佐賀県立佐賀北高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標 自主・自立を重んじ、知性を高め、人格の完成を目指す。 ①心身ともにバランスのとれた能力の伸長を図り、個性を磨く。 ②自由と責任を両立させて、明るく、思いやりのある人間を育成する。 ③社会の変化に対応できる柔軟性、創造性、国際性を育む。	2 本年度の重点目標 ①教科指導力の向上を図る。 ②より質の高い「文武両道」により、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健全な生徒を育成する。 ③生徒の規範意識の高揚を図る。 ④学習習慣の定着と生徒の進路意識の向上を図る。 ⑤教育相談体制の充実を図り、健全な心身を養成する。
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①教科指導力の向上を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○教職員の資質向上	教材研究や研究授業の推進による授業力の向上	・全職員が研究授業を1回以上実施する。 ・教科指導力の向上に向けた研修会への参加を奨励する。	・各教科担当者間で研究授業を行うことを通じて研鑽に努める。また、本校で実施される初任研・3年研・10年研等も活用する。 ・計画的に研修会等の案内を行い、参加しやすい環境をつくる。

②より質の高い「文武両道」を目指し、教育活動全般をととして、生徒の主体性、自主性、リーダー性を育成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○開かれた学校づくり	学校教育活動の積極的な情報発信	・学校通信「緑楠」の月1回程度の発行、HPの随時更新を行う。	・生徒の諸活動を紹介することで、生徒の意欲向上を図り、併せて保護者・地域住民に対する理解を深めてもらう。
	○生徒会活動	部活動、生徒会活動の質の高い充実	・部活動加入率90%以上を維持する。 ・専門性の高い活動内容の充実を図る。	・部活動紹介をおこない、見学する期間を1週間設ける。 ・可能な範囲内で、文化部に関しては、複数入部も認める。
	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・部活動と学習の両立ができていと思う生徒の割合70%以上を目指す。	・1日24時間という限られた時間を生徒が有効活用できるような指導支援を行う。

③生徒の規範意識の高揚を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	①自転車マナーの向上	・自転車事故を無くす、また、駐輪マナーの向上を目指す。	・定期的に校門や駐輪場で指導を行う。 ・交通マナーについて、全校集会などで継続的に指導を行う。 ・交通安全に関する講演会を実施する。
		②教室の施錠確認	・校内での盗難防止ゼロを目指す。	・毎時間、授業開始直後に教室の施錠確認を行う。
		③頭髪・服装指導	・頭髪・服装検査で指導を受ける生徒がゼロになることを目指す。	・月1度の割合で頭髪・服装検査を行う。また、日頃から生徒に指導をしていく。
	●いじめの問題への対応	①いじめのない学校づくり	・いじめゼロを目指す。	・生徒会を中心に、いじめ撲滅宣言を行う。
②早期発見・早期対応		・生徒指導、教育相談、担任、顧問と連携して、早期発見を目指す。 ・アンケート後1週間以内に集計の完成と情報共有をする。	・年3回のアンケート調査を行い、早期発見に努める。 ・関係分掌で協力して作業を行うことで、覚知を速やかにを行い、早期対応をする。 ・覚知の際は聞き取り等を分担して行うことで次への対応を迅速に行う。	

④学習習慣の定着と生徒の進路意識の向上を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着	・授業時数を確保する。 ・質の高い授業を通して、教科書の内容の理解を徹底させ、全員の基礎学力の定着を図る。	・出張・年休等による自習を減らすため、できる限り振替授業を行う。 ・小テストや単元テストなどで個々の学力の「定時・定点・必達」を行い、基礎学力定着度をアップする。
		①学習習慣の定着	・自宅学習時間を、1年次生は1.5時間、2年次生は2時間、3年次生は3時間を確保させる。特に休日は(学年+1)時間を確保させる。 ・週末課題、長期休業課題等を充実させ、全員に期限厳守で提出させる。	・学習と生活の記録「学心」やデジタル学習ツール「Classi」を活用し、学習時間調査を行う。個々の学業と照らし合わせ、細かい学習指導を行う。 ・各教科担当者で課題提出状況を把握しながら、個に応じた徹底した指導を行う。
	○進路指導	②希望進路の実現	・3年次生は進路希望の100%実現を目指す。 ・1年次生は文理選択の確立、2年次生は明確な進路希望の目標をもたせる。	・3年次生は、進路ガイダンスや系統別分科会を利用し、個々の進路目標を明確にし、それに対応できる学力を身に付けさせることで、進路実現を図る。 ・1、2年次生は文理選択ガイダンスや学部学科研究等を踏まえ、早期の進路目標の設定を行う。
		③大学合格	・現役生の合格者数で、難関国立大学3名以上、国公立大学100名以上を目指す。	・学期毎に進路希望調査を行い、模試等の成績を分析し、進路検討会や三者面談を適宜行うことで、高いレベルでの大学進学を意識高揚を図り、生徒個々に応じた適切な指導を行っていく。難関大に対応できる生徒育成を図る。

⑤教育相談体制の充実を図り、健全な心身を養成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	教育相談活動の充実	・生徒・保護者及び職員が円滑にカウンセリングを利用し活用できるように声かけをする。	・不登校傾向にある生徒やその家族に対して、担任を通じてカウンセリングの案内をする。 ・保健室との連携や、保健厚生部の会議を利用して生徒情報の把握に努める。 ・カウンセラーによる研修を通して、発達障害や不登校生徒に関する認識を全職員で共有する。
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の確立と食の自己管理能力の育成	・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい生活習慣について理解し、自ら健康管理できる能力を身に付けさせる。	・食育計画のもと、各教科で指導を行う。特に家庭基礎「食生活分野」で食に関する知識を身に付けさせる。実習やホームプロジェクトの取り組みを生かし、食生活の充実向上を図る態度を育成し、日常生活での実践につなげる。 ・食育計画の立案や朝食摂取アンケートを実施する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本校教育目標の周知	・後援会総会や各種通信・学校HPを通じて周知し、重点目標が理解できる保護者の割合を80%以上にする。	配布する資料やHPの内容を検討し、保護者の関心の高いものを盛り込む工夫をする。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進	・学校運営を組織的にを行い、業務の効率化と分散化を図ることによって、個人負担を軽減する。	・前年踏襲ではなく、現状に合った取組を考えながら、行事・企画を精選する。 ・業務の進捗等の情報共有に努め、職員間のフォロー体制を強化する。
教育活動	○図書館活動	読書活動・図書室利用の活性化	・前年度プラス100冊を目標として、図書室の来室者・貸出冊数を増加させる。 ・朝読書を、より充実させるよう働きかけを行う。 ・図書の延滞(特に長期延滞)をなくす。	・図書購入希望の取り方や表彰のあり方を検討し、生徒が気軽に図書室に来て、本を借りるような方を模索・実行する。 ・朝読書の巡回指導を強化するとともに、広報を活用した読書啓蒙を進めていく中で、読書の定着を促す。 ・学年と密に連絡を取り、図書返却に関する意識の向上に努める。
	○校内美化の推進	清掃活動の充実	・清掃活動に力を入れ、来校者も含め、誰もが気持ちよく過ごせるような校内環境を維持する。 ・ゴミの減量化について意識を喚起する。	・掃除用具の数を補充する等、清掃に取り組みやすい環境を整える。 ・ゴミの回収日を週2回(火曜日・木曜日)に指定し、すべて分別して持参させ回収する。分別できていないクラスの生徒にはその場で指導を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目